

新潟県立柏崎総合高等学校 学校管理業務仕様書

学校管理業務の実施に当たっては、委託契約書に定めるほか、この仕様書の定めるところに従い、誠実に行うものとする。

1 学校管理従事者の待機場所

業務のために席を離れる時以外は事務室に待機すること。

2 開扉・閉扉及び開口部の解錠・施錠

(1) 鍵の管理について

ア 校舎等の開扉・閉扉を行うため、学校管理従事者に次の鍵を預けるものとする。

(ア) 職員玄関の鍵

(イ) 事務室入口の鍵

イ 従事者は、預かった鍵を常に厳重に管理すること。

ウ 万一鍵を紛失した場合は、直ちに事務長に連絡をすること。

(2) 機械警備のセット及び解除について

ア 校舎等は、原則として次の時間帯は、機械警備業者による機械警備を実施する。

学校管理従事者は、登庁時にはセットされている機械警備を解除して校内に入る。また、退庁時には機械警備をセットして退出する。

・ 平日 午後 6 時 45 分から午前 7 時 15 分まで

・ 土日・休日 (4 月から 10 月まで) 午後 6 時から午前 8 時まで

・ 土日・休日 (11 月から 3 月まで) 午後 5 時から午前 8 時まで

イ セットの方法及び解除の方法

(ア) セットする場合

手順については機械警備をセットするところにある手順書に記載されている。

(イ) 解除する場合

手順については機械警備をセットするところにある手順書に記載されている。

(3) 平日午前(午前 7 時 15 分から午前 8 時 30 分まで)の場合

ア 開扉及び解錠

(ア) 午前 7 時 15 分までに正面玄関及び生徒玄関の開扉を行う。

(イ) 機械警備のセットを解除する。

(ウ) 別添の校舎・敷地図に示された箇所の開扉を行う。

(4) 平日午後(午後 5 時から午後 6 時 45 分まで)の場合

ア 施錠及び閉扉

(ア) 午後 5 時までに事務室で待機する。

(イ) 別添の校舎・敷地図に示された箇所の閉扉を行う。また校舎等に付帯する窓等の開口部の施錠を行う。

(ウ) 機械警備をセットする。

(エ) 午後 6 時 45 分に正面玄関及び生徒玄関の閉扉を行う。

(5) 土曜・日曜・休日^{*}の業務

開扉・閉扉及び開錠・施錠の箇所は平日に倣うが、農業管理棟の出入り口については開扉を要しない。

※ 4月から10月まで:午前8時から午後6時まで、11月から3月まで:午前8時から午後5時まで

3 各種機器の運転・確認

(1) 登庁後、生徒・職員等の登庁前の実施する業務

ア 冬期間、普通教室棟及び管理棟にある灯油の中継バルブの元栓を開栓する。

イ 中継バルブの位置は別添の校舎・敷地図に示されている。

(2) 生徒・職員の退庁後、退庁までの間に実施する業務

ア 特になし。

4 文書の受領、学校業務の受信、外来者の応接及び関係職員への連絡

(1) 文書の受領

ア 郵便受けに配達された新聞は、農業新聞については農業管理室前のボックスに残りの新聞は事務室のミーティングテーブルにそれぞれ配架する。

イ 従事者の登庁時に郵便受けに配達されている郵便物等がある場合若しくは職員の不在時に郵便物及び宅配便の配達があった場合は、これを受け取り、開封せずに事務室内の窓口傍の書棚の上に置くこと。

ウ 郵便物のうち重要なもの(現金書留等金庫に保管する必要があるもの)は、受け取らず、配達人に対して職員の在籍時間を伝え、再配達するように依頼する。

(2) 電話等による学校業務の受信

ア 事務室において、電話等による学校への連絡事項を受信する。

イ 生徒・保護者から欠席・遅刻の連絡があった場合、机の上に配置してある欠席者報告用紙に記入する。

ウ 欠席・遅刻以外の連絡の場合、机の上に配置してある電話受付メモに記載し、宛先となる職員の机の上に置いておく。

エ 上記ウについて、宛先となる職員が既に登庁している場合、宛先となる職員に口頭で連絡することとしても差し支えない。

(3) 外来者の応接

ア 来校する外来者は事務室窓口に立ち寄るように掲示等で案内をするので、受付をする。

イ 来校する外来者が予め分かる場合、職員は事務連絡メモにより外来者の応接の概要等を学校管理従事者に連絡する。学校管理従事者は、外来者の来校時に氏名(所属等)及び来校の目的等を確認し、来校者名簿に記帳してもらうとともに、来校者である旨の名札を着用してもらい、待機を指示された部屋等をお知らせする。

ウ 職員から事前に連絡を受けていない来校者があった場合、氏名(所属等)及び来校の目的等を確認し、職員の勤務時間(午前8時30分から午後5時)の間に改めて来校するよう丁重に伝えることを原則とする。

エ 緊急を要する来校者の場合等で、校内に通してもよいか従事者で判断が付かない場合

は、事務室の職員(事務室が不在の場合は職員室)と連絡をとり業務の引継を行う。

なお、事務室及び職員室とも職員が不在の場合は、事務長に電話等により連絡をとり業務の引継ぎを行う。

5 校舎等の損壊等の応急措置及び関係機関・関係職員への連絡

(1) 校舎等の応急措置

ア 火災警報装置のパネル表示で火災の表示がされた場合、現場に出向き状況を確認する。

イ 火災を発見したら、自身の身体の安全を確保した上で、消火を行うとともに延焼を防止するための応急措置を行う。

ウ 災害等が発生した場合、校舎等の周囲を周回し、校舎等の損壊の有無を確認する。

エ 損壊を発見した場合、自身の身体の安全を確保した上で、校舎等への風雨の吹き込みの防止や損壊の進行を防止するための応急措置を行う。

(2) 関係機関・関係職員への連絡

ア 火災を確認した場合は、直ちに消防署に通報する。同時に業務日誌に添付された緊急連絡網により防火管理者(教頭)に連絡する。

イ 災害等により校舎等の損壊を発見した場合、事務長に連絡する。

ウ その他の校舎等の異常(危険物の発見・異臭・異音及び著しい室内の散乱等)を確認した場合は、事務長に連絡をとり業務の引継を行う。

6 業務日誌

(1) 従事者は、毎日、業務終了後に業務日誌を記載し、事務長に提出すること。

(2) 業務日誌の書式は別添のとおりとし、業務日誌に記載されている記載要領に留意の上、必要事項を記載すること。